



**GOOD DESIGN
AWARD 2015**

2015年度「グッドデザイン賞」受賞

めぐる



**JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2015**

2015年度「ウッドデザイン賞・
審査委員長賞」受賞

『めぐる』は、“**家族の繋がり**”をテーマにした器です。



親から子へ、そして孫へ。
いのちが巡るように『めぐる』は旅をします。

めぐる



コンセプト：漆器本来の心地よい手触りを追求

目を使わず生きる方々の特別な感性と、高い技術を持つ会津漆器の職人たちの技が融合し、優しいかたちと心地よい手触りが生まれました。

デザイン：共に育つ、三つ組椀

一番小さなお椀は子ども椀として使い始められます。成長と共に使う器が増え、飯椀・汁椀・菜盛り椀として“人生に寄り添う”一揃いになります。

バリュー：世代を超えて“めぐる”器

漆器の良さは、塗り直しができること。将来の「めぐる」のお直しは、産地の若手職人たちが引き受けます。使い手も、作り手も、世代を超えて繋がる器です。

ソーシャル：日本の漆を次世代に繋ぐために

僅か2%になってしまった国産の漆を守るため、商品に国産漆を使用するだけでなく、購入時に漆の木の植栽活動に寄付がされる仕組みです。そこから採られた漆で、将来の塗り直しをお受けします。





会津漆器 × DIALOG IN THE DARK



"特別な感性"から生まれた漆器

「めぐる」は漆器本来の心地よい肌触りや口当たり、そして抱き上げたくなる優しいかたちを追求した、三つ組のお椀です。

「めぐる」のデザインには、目を使わずに生きる人たちが活躍する、ソーシャル・エンターテイメント「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」のアテンドたちが参加しています。

手先や唇の繊細な感覚を持つ彼女たちが求める、究極の心地よさと使いやすさ。それを実現させたのは、会津の職人たちの匠の技。

両者が対話を積み重ねながら、約1年をかけてじっくり商品開発しました。



DIALOG
IN THE
DARK

「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」は、
漆黒の闇の中でのエンターテインメントです。

参加者は完全に光を遮断した空間の中へ、
グループを組んで入り、暗闇のエキスパート
であるアテンド（視覚障害者）のサポートの
もと、中を探検し、様々なアトラクションを
体験します。

その過程で視覚以外の様々な感覚の可能性と
心地よさに気づき、そしてコミュニケーション
の大切さ、人のあたたかさを思い出します。

1989年にドイツで生まれ、現在世界で700万人、
日本でも11万人が体験しています。



商品開発パートナーの ダイアログ・イン・ザ・ダークのアテンド達



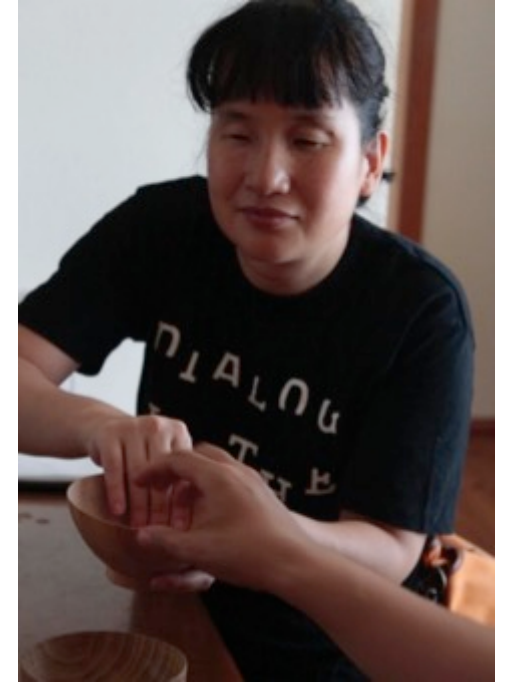
川端 美樹さん
(みきティ)

繊細な感性と敏感な触感覚で、
手から離したくない器の形を提案



足利 幸子さん
(ランラン)

絶妙のバランス感覚で
水平のアイディアを提案



大胡田 亜矢子さん
(は一ちゃん)

2児の子育て経験から、
こどもが使いやすい器を提案

「丁寧に暮らす」人たち。

目を使わない方々は、
「丁寧に暮らす」人たち。

彼/彼女たちは、目を使わない分、
「肌触り・口触り」の達人です。

自分が対峙した物を、手や口や耳で
「丁寧に見る」ことを日常の中で
おこなっています。

その感性は、健常者のそれを
驚くほど超越した特殊技能です。

ダイアログ・イン・ザ・ダークの
アテンドたちの力を借りるからこそ
見えてくる、漆器という道具の持つ
本当の魅力があるはずです。



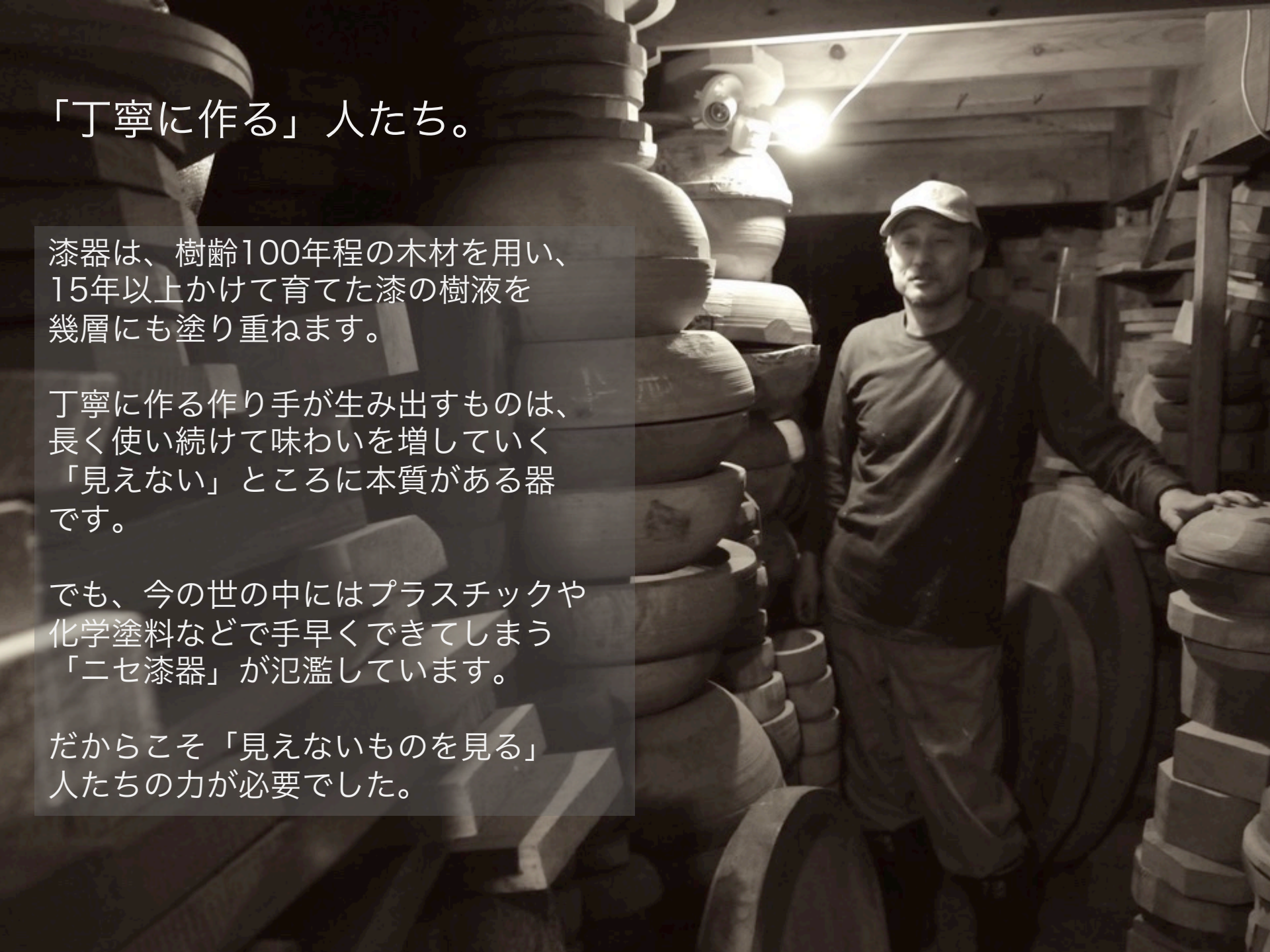
「丁寧にする」人たち。

漆器は、樹齢100年程の木材を用い、15年以上かけて育てた漆の樹液を幾層にも塗り重ねます。

丁寧に作る作り手が生み出すものは、長く使い続けて味わいを増していく「見えない」ところに本質がある器です。

でも、今の世の中にはプラスチックや化学塗料などで手早くできてしまう「ニセ漆器」が氾濫しています。

だからこそ「見えないものを見る」人たちの力が必要でした。

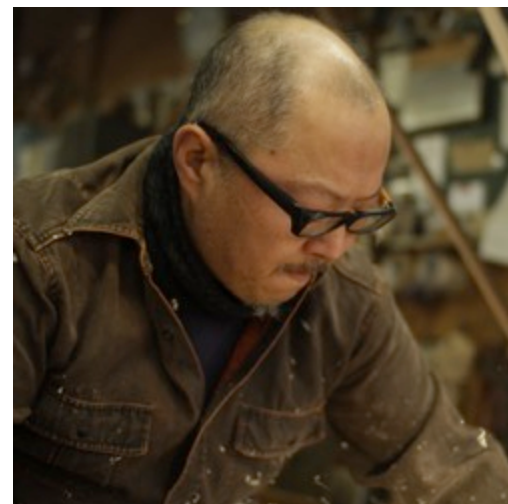


『めぐる』の作り手たち（会津漆器職人）

確かな技術を持つ選りすぐりの工房により、全て手仕事で制作されています。



木地師
荒井 勝祐 氏
丸祐製作所
3代目



木地師
石原 晋 氏
石原木工所
3代目



塗り師
吉田 徹 氏
吉田漆工房
3代目



塗り師
富樫 孝男 氏
塗師一富
3代目

1年に及んだ商品開発セッション ～何度も試作とテイスティングを繰り返しました～



完成した2つのかたち 「水平」と「日月」

水平 すいへい



「しっかりしていてこぼさず持てる」

「手だけじゃなくからだ全体の重心が決まる」

安心して抱きあげるような骨格があり、
テーブルの水平も手の角度も知ることができる。

たしかな安定感がある優しい形の器は、
職人とアテンドの対話によって生まれました。



日月 にちげつ



「ずっと手の中に包んでおきたい」

「自分の唇と器の境目がわからなくなってくるみたい」

おもわず頬ずりしたくなる心地よさは、

まるで人のぬくもりそのもの。

漆器に触れたアテンドたちの声をもとに職人が追求した器は、

日月を重ねるほどに愛情が増していく形をしています。



日本産の漆の力と現状

漆の原料は、ウルシノキの樹液です。
一度固まってしまえば、強い酸やアルカリ、
アルコールにも強く、抗菌作用もあります。

中でも「めぐる」には、上質な国産の漆を
上塗りに使用しています。

国内最大の漆液の産地・浄法寺で活躍する
会津出身の漆掻き職人・鈴木健司さんの漆
です。

日本の漆は透明度が高く、非常に硬く仕上
がる性質があります。

いい漆で塗った漆器は、美しい肌になる
だけでなく、年月を重ね使い込むことで、
漆本来の艶と透明感を増していきます。

しかし、この国産の漆は現在僅か2%です。
98%を海外産に頼っているのが現状です。

漆が採れるようになるまで15年程かかる
この国産漆をどう守るのが、日本文化を
繋いでいく上で、とても大事な課題です。



『めぐる』の目指すもの

作り手（生産）と使い手（消費）を繋ぎ直し、みんなでいいものを守り育てる循環を作る。



器が育ち、使い手が育ち、漆の森が育ち、次の作り手が育ち、みんなでめぐる。

器も、人も、育っていく。

あなたの日々と同じ速度で
息をする漆器は生きている
産まれたたての子供みたいに
やわらかい肌とやさしい形
森にかえっていくみたいに
ゆるやかに時間がながれて
感触、音、記憶がめぐって
あなたの日々と同じ速度で
生きている漆器が育ち——
これから何をいれますか？

『めぐる』のある食卓 Photo Gallery



『めぐる』を使った食と器のイベントを開催しています (開催パートナー募集中です)



商品ラインナップと販売方法

■商品概要

商品名：『めぐる』
種類：「水平」「日月」の
2シリーズ
価格：7,000円～（税抜）
販売：下記専用サイトにて

<http://meguru-urushi.com/>

■めぐる企画・販売

株式会社明天
代表取締役 貝沼航

〒965-0866
福島県会津若松市新横町4-16-201
TEL：0242-85-6803
E-mail：kainuma@meiten.biz



めぐる・水平 <三つ組>

¥37,800



めぐる・水平 <単品・大>

¥16,200



めぐる・水平 <単品・中>

¥14,040



めぐる・水平 <単品・小>

¥9,720



めぐる・日月（花塗り） <三つ組>

¥35,640



めぐる・日月（花塗り） <単品・大>

¥15,120



めぐる・日月（花塗り） <単品・中>

¥12,960



めぐる・日月（花塗り） <単品・小>

¥9,720



めぐる・日月（拭き漆） <三つ組>

¥27,000



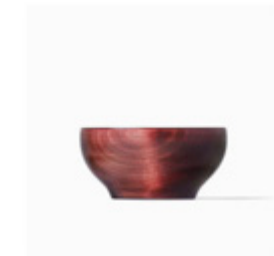
めぐる・日月（拭き漆） <単品・大>

¥11,880



めぐる・日月（拭き漆） <単品・中>

¥9,720



めぐる・日月（拭き漆） <単品・小>

¥7,560